

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長 殿
【提出日】	2021年 1月15日提出
【発行者名】	カレラアセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 廣川 雅一
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂一丁目12番32号アーク森ビル12階
【事務連絡者氏名】	秋永 芳郎
【電話番号】	03-6691-2017
【届出の対象とした募集 （売出）内国投資信託受 益証券に係るファンドの 名称】	オランダ株式ファンド
【届出の対象とした募集 （売出）内国投資信託受 益証券の金額】	1,000億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日付で有価証券報告書を提出しましたので、2020年7月15日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報等を更新するため、また、その他の情報について訂正を行なうため本訂正届出書を提出いたします。

【訂正の内容】

原届出書の該当内容は、以下の内容に訂正いたします。下線部_____は訂正部分を示します。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

（略）

オランダについて



欧州の表玄関

国土の約4分の1が海拔0メートル以下であり、「低い土地」という意味の国名を持つ国である

面積	41,864平方キロメートル(九州とほぼ同じ)
人口	1,738.4万人(2019年9月)
首都	アムステルダム
通貨	ユーロ
GDP	約9,072億米ドル(2019年)
一人当たりGDP	52,646米ドル(2019年)
総貿易額 (2018年)	(1)輸出:4,979億ユーロ (2)輸入:4,413億ユーロ
主要貿易品 (2018年)	(1)輸出:機械・輸送機器類,化学製品,鉱物性燃料等 (2)輸入:機械・輸送機器類,鉱物性燃料,雑製品等
主要貿易相手国 (2018年)	(1)輸出:ドイツ,ベルギー,英国,フランス,米国など (2)輸入:ドイツ,ベルギー,中国,米国,英国など

出所：外務省(2019年12月3日現在)、IMF(2020年10月見直し)



豊かな文化

- 世界的画家：レンブラント、フェルメール、ゴッホ
- 世界遺産：文化遺産9カ所、自然遺産1カ所
現在では、オランダ政府が特に推進している都市文化政策のひとつにデザイン・建築・ゲーム・ダンスミュージック等の「クリエイティブセクター」がある。

出所：ユネスコ(2020年12月7日現在)

上記は信頼できると判断した情報に基づき作成していますが、情報の正確性・完全性についてはカレラアセットマネジメントが保証するものではありません。

オランダの魅力

●高い国際競争力

国際競争力ランキング

1位	シンガポール	6位	日本	11位	フィンランド
2位	米国	7位	ドイツ	12位	台湾
3位	香港	8位	スウェーデン	13位	韓国
4位	オランダ	9位	英国	14位	カナダ
5位	スイス	10位	デンマーク	15位	フランス

評価項目	政府・民間組織、インフラ、マクロの経済状況、教育・訓練、市場効率性、労働市場の効率性、金融市場の発展・効率性、テクノロジー、市場規模、革新性等
------	---

出所：世界経済フォーラム「国際競争力レポート2019」

●ICT立国

・世界トップクラスのICTセクター

オランダでは数多くのICT関連の教育・研究機関が存在し、オランダで生み出されるイノベーションの70%がICT関連に起因します。

・通信インフラが整備され、高い生産性、効率性を実現したスマート・シティやスマート・アグリを構築「ICT」と「経営戦略」が一体となって、ビジネスの効率化、持続可能な生産システムを創造する。

※ICT：情報技術(IT)に通信(C)の重要性を加味した言葉で、海外では一般的に使われている

●欧州事業統括拠点

オランダ政府は、同国に欧州の事業拠点を置く企業に対して優遇税制措置を講じている。

オランダに欧州拠点を置く企業

シスコシステムズ(米国)、ナイキ(米国)、アステラス製薬、デンソー、キヤノン、オムロン、ヤクルトなど

上記は信頼できると判断した情報に基づき作成していますが、情報の正確性・完全性についてはカレラアセットマネジメントが保証するものではありません。

オランダの魅力

●世界有数のスマート・アグリ

スマート・アグリ



スマート・アグリを支えるクラスター

フードバレー

ワーヘニンゲン大学、TNO、TIFNなど世界的な食品関連研究機関が集まる。品種改良から栽培技術、食品保存から加工法まで革新的な産学連携研究を強化。

シードバレー

オランダが世界に誇る育種・育苗分野の一大クラスター。フードバレーとも連携している。先端技術を駆使して品質・安全性の向上に取り組む。

●国家戦略

産官学連携の産業クラスター

バイオテクノロジーの2大サイエンスパーク

ライデン・バイオサイエンスパーク

欧州トップクラスのメディカル・バイオサイエンスパーク。オランダ最古のライデン大学の研究施設などがあり、ガン研究や難病対策の薬品開発における中央拠点となっている。セントコア、ガラバゴス、日本からはアステラス製薬など多くの多国籍企業が研究拠点を置いている。

サイエンス・ポート・ホラント

バイオ、エネルギー、環境、ライフサイエンス分野における世界トップクラスの研究開発拠点。デルフト工科大学、エラスムス大学、工業バイオの国際企業DSMが中核を成す。

●オランダの8大産業

オランダが強みを持つ8つの主要産業があります。官民一体となって、ビジネスインフラを整備、提供しており、世界中の企業が欧州の拠点として、オランダに投資している。

Top Sectors オランダの8大産業			
スマート・アグリを中心とした付加価値の高い農産品の国際的サプライヤーを育成。	多くの有名IT企業が欧州拠点をオランダに置き、先進的な研究や施設で世界をリードする。	多国籍企業アクソノーベルなど化学関連企業の研究開発拠点となっている。	半導体産業の完全バリューチェーンを保有し、世界トップの半導体関連企業ASMLなど多くのハイテク企業がある。
医療・バイオテクノロジー関連企業の研究・開発の拠点を置く。	デザイン、建築、ソフトウェア、ゲーム開発などの芸術分野を広く推進。	オランダは北海油田を有し、ロイヤル・ダッチ・シェルが本社を置く。	ワールドクラスの物流インフラ、戦略的な立地、優遇税制、優秀な人材を有し、世界を代表する国際企業がオランダに拠点を置く。

出所：オランダ政府発表資料よりカレラAM作成（2020年12月7日現在）

上記は信頼できると判断した情報に基づき作成していますが、情報の正確性・完全性についてはカレラアセットマネジメントが保証するものではありません。

経済状況

EU(欧州連合)のボーダーレスによる経済活性化

EU 経済圏の主要国として、構造改革の推進や規模・効率化をともなった安定成長を期待

ECB(欧州中央銀行)の金融政策正常化への期待

企業業績や消費者マインドの改善基調が継続。今後、設備投資や雇用の増加が期待できる

● 経常黒字国

オランダは、大幅な経常黒字国であり、今後も経常収支の黒字が見込まれている。



オランダの株式市場について

ユーロネクスト・アムステルダム

所在	アムステルダム	主要株価指数	AEX指数	時価総額	約1兆1,198億ユーロ	上場企業数	98社
----	---------	--------	-------	------	--------------	-------	-----

出所：ユーロネクスト(2020年11月末現在)

アムステルダム証券取引所は世界最古の証券取引所だったが、2000年9月より、パリ証券取引所、ブリュッセル証券取引所と合併し、ユーロネクストとなった。これにより、名称もユーロネクスト・アムステルダムへ改称された。2002年にリスボン証券取引所とロンドン金融先物取引所(LIFFE)が加入した。

外貨建て長期債格付け	S & P	AAA	ムーディーズ	Aaa	フィッチ	AAA
------------	-------	-----	--------	-----	------	-----

出所：当社調べ（2020年11月末現在）

● 組入銘柄候補(例)

銘柄名	業種	企業内容
ロイヤル・ダッチ・シェル	エネルギー	石油会社。石油の探査・生産・精製を手掛ける。燃料、化学品、潤滑油も製造する。
INGグループ	金融	個人、法人、公共機関に金融サービスを提供する。預金・貸付などの銀行業務の他、資産・ポートフォリオ管理、収納代行サービス、保険などユニバーサル・バンキングを世界各地で展開している。
コーニンクレッカ・フィリップス	電器・電子機器	医療システム機器、家電、消費者向け電子製品などを製造する。先端技術を生かしたフィリップス製品は世界的ブランド。
ASMLホールディング	IT	半導体製造用機器の開発、製造、販売会社。半導体露光装置(ステッパー)の分野では世界最大で、世界中の大手半導体メーカーに製品を供給する。
アクソノーベル	素材	化学品メーカー。化学品、コーティング剤、塗料の製造および販売を手掛ける。製品は、界面活性剤、ポリマー化学品、パルプ、ペーパー、ラッカー、ワニスなど。
アルセロール・ミタル	素材	世界最大の鉄鋼メーカー。冷延、電気亜鉛メッキ、塗装鋼、スラブ、特殊鋼、線材を製造する。欧州、アフリカ、北・南米、アジアで事業を展開する。
ハイネケン	生活必需品	世界的な飲料メーカー。各種商標名のもとビール、蒸留酒、ワイン、ソフトドリンクを製造する。

※「組入銘柄候補(例)」はあくまでも参考のために掲載したものであり、個別企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに組入れることを保証するものではありません。出所：当社調べ（2020年12月7日現在）

上記は信頼できると判断した情報に基づき作成していますが、情報の正確性・完全性についてはカレラアセットマネジメントが保証するものではありません。

(略)

(3)【ファンドの仕組み】

<訂正前>

(略)

委託会社の概況

イ．資本金の額（2020年5月末日現在）

(略)

ハ．大株主の状況（2020年5月末日現在）

(略)

<訂正後>

(略)

委託会社の概況

イ．資本金の額（2020年11月末日現在）

(略)

ハ．大株主の状況（2020年11月末日現在）

(略)

2【投資方針】

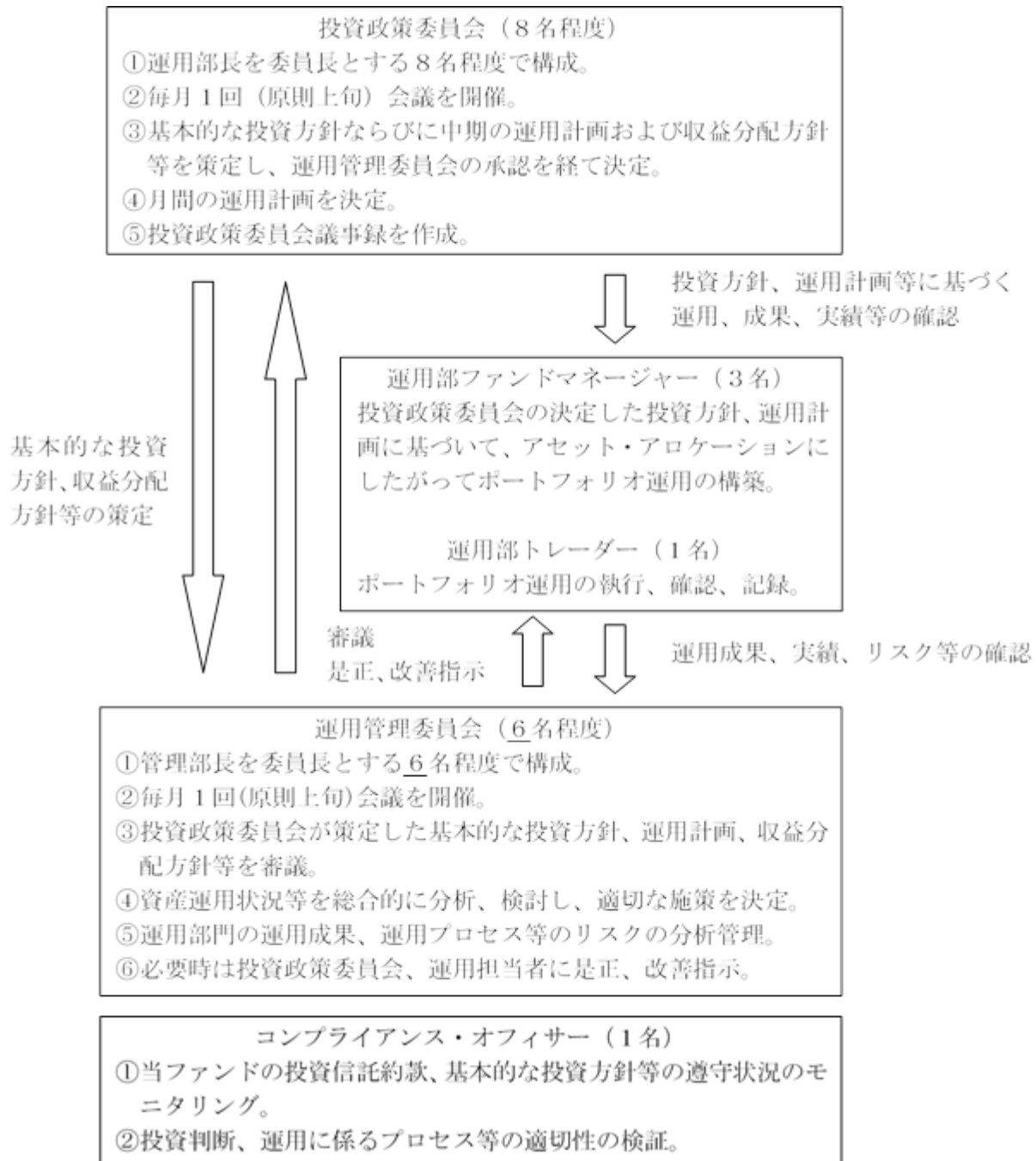
(3)【運用体制】

<訂正前>

運用体制

ファンドの運用体制は、以下の通りとなっています。

(略)



内部管理体制

(略)

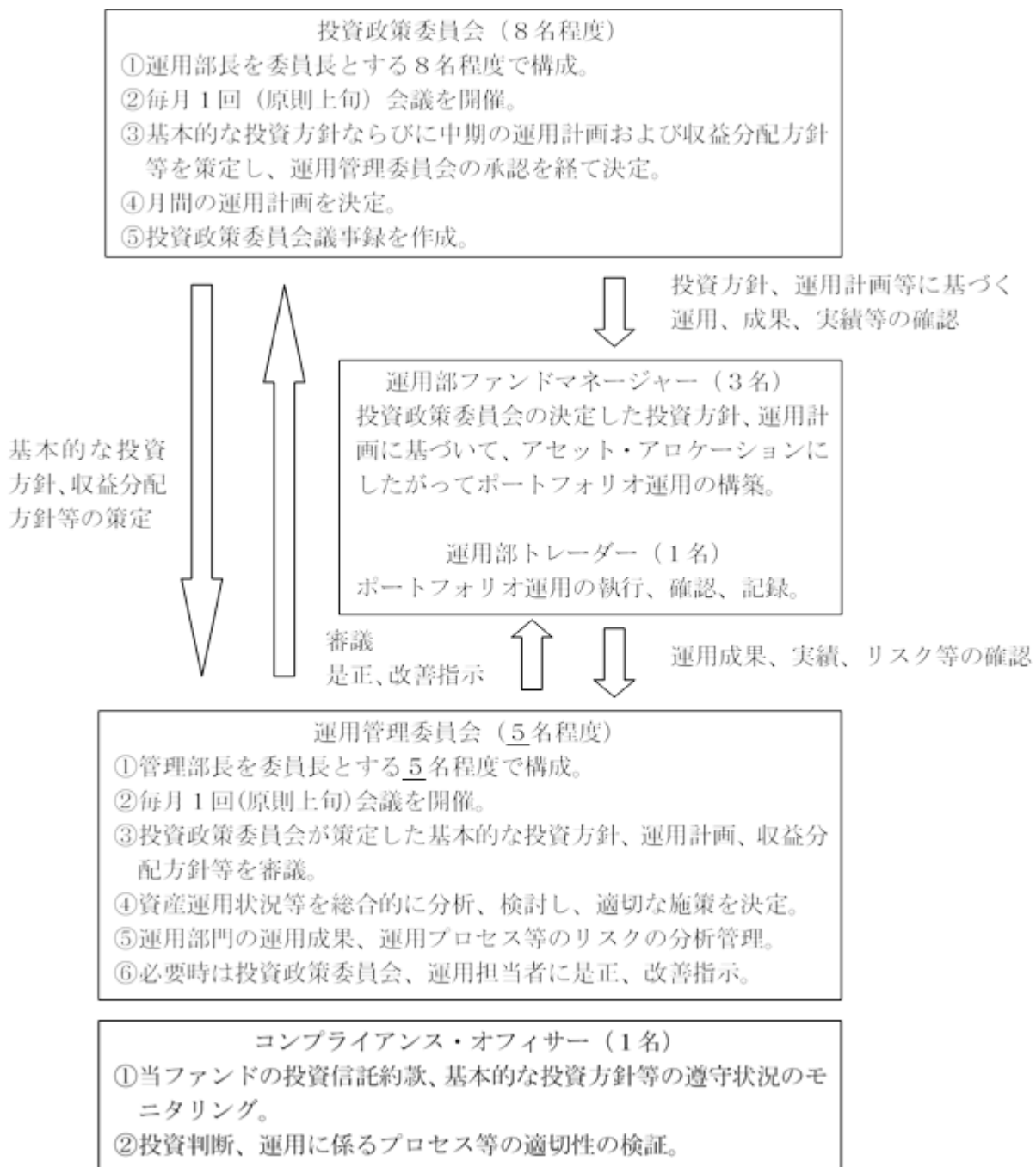
(注) 運用体制は2020年5月末日現在のものであり、今後、変更となる場合があります。

<訂正後>

運用体制

ファンドの運用体制は、以下の通りとなっています。

（略）



内部管理体制

（略）

（注）運用体制は2020年11月末日現在のものであり、今後、変更となる場合があります。

3【投資リスク】

<訂正前>

（略）

（3）リスク管理体制

（略）

（注）投資リスクに対する管理体制は2020年5月末日現在のものであり、今後、変更となる場合があります。

(参考情報)

ファンドの年間騰落率及び
分配金再投資基準価額の推移

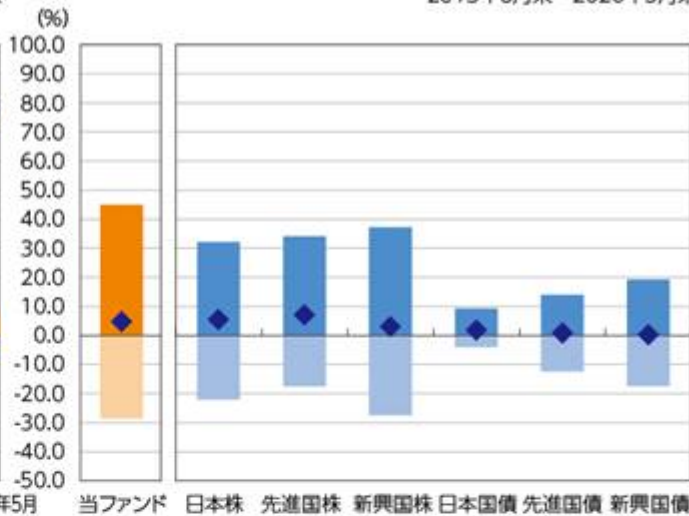
2015年6月末～2020年5月末



ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

グラフは、ファンドと代表的な資産のリスクを定量的に比較できる
ように作成したものです。

2015年6月末～2020年5月末



■ 当ファンドの年間騰落率(右軸) — 分配金再投資基準価額(左軸)

■ 最大値 ■ 最小値 ◆ 平均値 ■ 最大値 ■ 最小値

*ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

*分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なる場合があります。

*年間騰落率は、2015年6月から2020年5月までの各月末における直近1年間の騰落率を表示したものです。

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	4.8	5.5	7.1	3.1	1.9	0.9	0.3
最大値	45.0	32.2	34.1	37.2	9.3	14.0	19.3
最小値	△28.5	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*2015年6月から2020年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。

*決算日に対応した数値とは異なります。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数(TOPIX)

先進国株…MSCI コクサイ・インデックス(除く日本)(円ベース)

新興国株…MSCI エマージング・マーケット・インデックス(円ベース)

日本国債…NOMURA・ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス(除く日本)(円ベース)

新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)

「東証株価指数(TOPIX)」は、東京証券取引所の知的財産で、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

「MSCI コクサイ・インデックス(除く日本)」は、MSCI Inc.が開発した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

「MSCI エマージング・マーケット・インデックス」とは、MSCI Inc.が開発した世界の新興国株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

「NOMURA・ボンド・パフォーマンス・インデックス国債」は、野村証券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。同指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利は野村証券株式会社に帰属しております。また、野村証券株式会社は、ファンドの運用成果に関して一切の責任を負うものではありません。

「FTSE世界国債インデックス(除く日本)」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。なお、FTSE世界国債インデックスはFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

「JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド」とは、新興国の現地通貨建債券市場の動向を測るためにJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが開発した、時価総額ベースの債券インデックスです。同指数に関する商標・著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利はJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

<訂正後>

（略）

（３）リスク管理体制

（略）

（注）投資リスクに対する管理体制は2020年11月末日現在のものであり、今後、変更となる場合があります。

(参考情報)

ファンドの年間騰落率及び 分配金再投資基準価額の推移

2015年12月末～2020年11月末



2015年12月 2016年11月 2017年11月 2018年11月 2019年11月 2020年11月

■ 当ファンドの年間騰落率(右軸) — 分配金再投資基準価額(左軸)

*ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

*分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なる場合があります。

*年間騰落率は、2015年12月から2020年11月までの各月末における直近1年間の騰落率を表示したものです。

ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

グラフは、ファンドと代表的な資産のリスクを定量的に比較できるように作成したものです。

2015年12月末～2020年11月末



当ファンド 日本株 先進国株 新興国株 日本国債 先進国債 新興国債

■ 最大値 ■ 最小値 ◆ 平均値 ■ 最大値 ■ 最小値

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	4.3	3.7	6.6	4.2	1.5	0.8	0.8
最大値	45.0	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△28.5	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*2015年12月から2020年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。

*決算日に対応した数値とは異なります。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数(TOPIX)

先進国株…MSCI コクサイ・インデックス(除く日本)(円ベース)

新興国株…MSCI エマージング・マーケット・インデックス(円ベース)

日本国債…NOMURA・ボンド・パフォーマンス・インデックス国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス(除く日本)(円ベース)

新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

「東証株価指数(TOPIX)」は、東京証券取引所の知的財産で、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの高標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

「MSCI コクサイ・インデックス(除く日本)」は、MSCI Inc.が開発した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

「MSCI エマージング・マーケット・インデックス」とは、MSCI Inc.が開発した世界の新興国株式市場の動きを表す株価指数で、株式時価総額をベースに算出されます。同指数に関する著作権等の知的財産権及びその他の一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

「NOMURA・ボンド・パフォーマンス・インデックス国債」は、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスを基に計算されます。同指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しております。また、野村證券株式会社は、ファンドの運用成果に関して一切の責任を負うものではありません。

「FTSE世界国債インデックス(除く日本)」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。なお、FTSE世界国債インデックスはFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

「JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド」とは、新興国の現地通貨建債券市場の動向を測るためにJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが開発した、時価総額ベースの債券インデックスです。同指数に関する商標・著作権等の知的財産権、指数値の算出、利用その他一切の権利はJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

5【運用状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」を以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

(1)【投資状況】

「オランダ株式ファンド」

(令和2年11月30日現在)

資産の種類	地域別(国名)	時価合計(円)	投資比率(%)
株式	フランス	107,131,368	6.01
	オランダ	1,486,164,347	83.46
	ベルギー	32,680,845	1.83
	ルクセンブルク	38,045,354	2.13
	小計	1,664,021,914	93.45
現金・預金・その他資産 (負債控除後)	-	116,463,080	6.54
合計(純資産総額)		1,780,484,994	100.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

「オランダ株式ファンド」

a 投資有価証券明細

(令和2年11月30日現在)

国/地域	種類	銘柄名	業種	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
オランダ	株式	ASML HOLDING NV	半導体・ 半導体製 造装置	7,000	42,401.14	296,807,994	45,566.61	318,966,291	17.91
オランダ	株式	NXP SEMICONDUCTORS NV	半導体・ 半導体製 造装置	12,000	14,244.35	170,932,295	16,512.27	198,147,319	11.13
オランダ	株式	ADYEN NV	ソフト ウェア・ サービス	700	208,834.02	146,183,814	200,998.08	140,698,656	7.90
オランダ	株式	ASM INTERNATIONAL NV	半導体・ 半導体製 造装置	6,000	17,220.41	103,322,466	18,346.05	110,076,300	6.18
フランス	株式	CONSTELLUM SE	素材	80,000	904.88	72,390,552	1,339.14	107,131,368	6.02
オランダ	株式	SIGNIFY NV	資本財	18,000	4,440.36	79,926,588	4,533.65	81,605,718	4.58
オランダ	株式	AERCAP HOLDINGS NV	資本財	20,000	3,009.25	60,185,139	4,016.38	80,327,748	4.51
オランダ	株式	PROSUS NV	小売	6,000	10,424.28	62,545,727	11,597.19	69,583,147	3.91
オランダ	株式	BE SEMICONDUCTOR INDUSTRIES	半導体・ 半導体製 造装置	12,500	5,112.01	63,900,225	5,447.84	68,098,050	3.82
オランダ	株式	ACCELL GROUP	耐久消費 財・アパ レル	19,000	3,153.03	59,907,627	3,296.07	62,625,330	3.52
オランダ	株式	ARCADIS NV	資本財	17,000	2,495.06	42,416,068	3,134.37	53,284,392	2.99
オランダ	株式	ING GROEP NV-CVA	各種金融	50,000	777.25	38,862,531	1,046.78	52,339,104	2.94
オランダ	株式	KONINKLIJKE DSM NV	素材	3,000	18,296.29	54,888,894	17,040.06	51,120,180	2.87

ルクセンブルク	株式	ARCELORMITTAL	素材	20,000	1,501.76	30,035,282	1,902.26	38,045,354	2.14
オランダ	株式	POSTNL NV	運輸	100,000	367.79	36,779,166	357.59	35,759,250	2.01
ベルギー	株式	GALAPAGOS NV	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2,500	15,217.89	38,044,733	13,072.33	32,680,845	1.84
オランダ	株式	CORBION NV	食品・飲料・タバコ	6,000	5,410.53	32,463,180	5,311.02	31,866,156	1.79
オランダ	株式	AKZO NOBEL N.V.	素材	2,500	11,271.31	28,178,289	11,149.42	27,873,558	1.57
オランダ	株式	JUST EAT TAKEAWAY.COM N.V.	ソフトウェア・サービス	2,000	12,954.17	25,908,354	10,967.82	21,935,657	1.23
オランダ	株式	PROQR THERAPEUTICS NV	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	50,914	473.73	24,119,917	426.98	21,739,662	1.22
オランダ	株式	KONINKLIJKE BAM GROEP NV	資本財	80,000	134.45	10,756,382	241.29	19,303,776	1.08
オランダ	株式	ALFEN BEHEER B.V.	資本財	2,000	7,524.99	15,049,980	8,544.90	17,089,812	0.96
オランダ	株式	AALBERTS INDUSTRIES NV	資本財	3,000	4,296.08	12,888,255	4,587.13	13,761,403	0.77
オランダ	株式	SIF HOLDING NV	資本財	5,000	1,965.20	9,826,020	1,992.56	9,962,838	0.56

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率をいいます。

b 種類別及び業種別投資比率

(令和2年11月30日現在)

種類	業種	投資比率(%)
株式(外国)	素材	12.59
	資本財	15.46
	運輸	2.01
	耐久消費財・アパレル	3.52
	小売	3.91
	食品・飲料・タバコ	1.79
	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	3.06
	各種金融	2.94
	ソフトウェア・サービス	9.13
	半導体・半導体製造装置	39.05
合計	93.46	

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の評価金額の比率をいいます。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

令和2年11月30日および同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期末の純資産の推移は次の通りです。

計算期間末 または各月末	純資産総額 (円) (分配落)	純資産総額 (円) (分配付)	1口当たり 純資産額(円) (分配落)	1口当たり 純資産額(円) (分配付)
第1期 (平成25年 10月15日)	1,614,748,486	1,659,315,532	1.0870	1.1170
第2期 (平成26年 4月15日)	1,625,014,319	1,681,208,227	1.1567	1.1967
第3期 (平成26年 10月15日)	1,392,158,867	1,516,515,520	1.0075	1.0975
第4期 (平成27年 4月15日)	1,548,672,155	1,683,086,349	1.1522	1.2522
第5期 (平成27年 10月15日)	1,385,494,169	1,494,323,023	1.0185	1.0985
第6期 (平成28年 4月15日)	2,573,228,446	2,573,228,446	0.9401	0.9401
第7期 (平成28年 10月17日)	2,254,594,207	2,254,594,207	0.9087	0.9087
第8期 (平成29年 4月17日)	2,325,579,033	2,325,579,033	0.9989	0.9989
第9期 (平成29年 10月16日)	2,663,022,407	2,705,335,241	1.2587	1.2787
第10期 (平成30年 4月16日)	2,446,399,041	2,485,412,930	1.2541	1.2741
第11期 (平成30年 10月15日)	1,979,549,449	2,017,162,404	1.0526	1.0726
第12期 (平成31年 4月15日)	1,879,293,447	1,913,510,056	1.0985	1.1185
第13期 (令和1年 10月15日)	1,639,502,532	1,670,720,441	1.0504	1.0704
第14期 (令和2年 4月15日)	1,311,451,609	1,311,451,609	0.9474	0.9474
第15期 (令和2年 10月15日)	1,647,640,796	1,675,180,881	1.1965	1.2165
令和1年 11月末日	1,707,725,803	-	1.1317	-
令和1年 12月末日	1,733,468,094	-	1.1744	-
令和2年 1月末日	1,678,506,657	-	1.1517	-
令和2年 2月末日	1,527,937,466	-	1.0853	-
令和2年 3月末日	1,261,108,542	-	0.9092	-
令和2年 4月末日	1,412,667,118	-	1.0247	-
令和2年 5月末日	1,540,265,219	-	1.0650	-
令和2年 6月末日	1,592,056,423	-	1.0963	-
令和2年 7月末日	1,587,204,742	-	1.1035	-
令和2年 8月末日	1,655,786,945	-	1.1680	-
令和2年 9月末日	1,579,961,433	-	1.1349	-
令和2年 10月末日	1,526,935,699	-	1.1089	-
令和2年 11月末日	1,780,484,994	-	1.3078	-

【分配の推移】

計算期間	1口当たりの分配金(円)
第1期 (平成25年4月23日～平成25年10月15日)	0.0300
第2期 (平成25年10月16日～平成26年4月15日)	0.0400
第3期 (平成26年4月16日～平成26年10月15日)	0.0900
第4期 (平成26年10月16日～平成27年4月15日)	0.1000
第5期 (平成27年4月16日～平成27年10月15日)	0.0800
第6期 (平成27年10月16日～平成28年4月15日)	0.0000
第7期 (平成28年4月16日～平成28年10月17日)	0.0000
第8期 (平成28年10月18日～平成29年4月17日)	0.0000
第9期 (平成29年4月18日～平成29年10月16日)	0.0200
第10期 (平成29年10月17日～平成30年4月16日)	0.0200
第11期 (平成30年4月17日～平成30年10月15日)	0.0200
第12期 (平成30年10月16日～平成31年4月15日)	0.0200
第13期 (平成31年4月16日～令和1年10月15日)	0.0200
第14期 (令和1年10月16日～令和2年4月15日)	0.0000
第15期 (令和2年4月16日～令和2年10月15日)	0.0200

【収益率の推移】

計算期間	収益率(%)
第1期 (平成25年4月23日～平成25年10月15日)	11.7
第2期 (平成25年10月16日～平成26年4月15日)	10.1
第3期 (平成26年4月16日～平成26年10月15日)	5.1
第4期 (平成26年10月16日～平成27年4月15日)	24.3
第5期 (平成27年4月16日～平成27年10月15日)	4.7
第6期 (平成27年10月16日～平成28年4月15日)	7.7
第7期 (平成28年4月16日～平成28年10月17日)	3.3
第8期 (平成28年10月18日～平成29年4月17日)	9.9

第9期 (平成29年4月18日～平成29年10月16日)	28.0
第10期 (平成29年10月17日～平成30年4月16日)	1.2
第11期 (平成30年4月17日～平成30年10月15日)	14.5
第12期 (平成30年10月16日～平成31年4月15日)	6.3
第13期 (平成31年4月16日～令和1年10月15日)	2.6
第14期 (令和1年10月16日～令和2年4月15日)	9.8
第15期 (令和2年4月16日～令和2年10月15日)	28.4

(注)「収益率」とは、各計算期間ごとに計算期末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」）を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た比率をいいます。
収益率は、小数第2位を四捨五入しております。

(4)【設定及び解約の実績】

下記計算期間中の設定および解約の実績は次の通りです。

計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)	発行済口数(口)
第1期 (平成25年4月23日～平成25年10月15日)	1,616,864,622	131,296,399	1,485,568,223
第2期 (平成25年10月16日～平成26年4月15日)	18,767,333	99,487,844	1,404,847,712
第3期 (平成26年4月16日～平成26年10月15日)	3,024,893	26,132,015	1,381,740,590
第4期 (平成26年10月16日～平成27年4月15日)	9,388,630	46,987,272	1,344,141,948
第5期 (平成27年4月16日～平成27年10月15日)	57,828,046	41,609,308	1,360,360,686
第6期 (平成27年10月16日～平成28年4月15日)	1,418,861,248	41,919,768	2,737,302,166
第7期 (平成28年4月16日～平成28年10月17日)	6,256,528	262,349,036	2,481,209,658
第8期 (平成28年10月18日～平成29年4月17日)	1,812,105	154,922,747	2,328,099,016
第9期 (平成29年4月18日～平成29年10月16日)	1,522,459	213,979,774	2,115,641,701
第10期 (平成29年10月17日～平成30年4月16日)	5,481,727	170,428,948	1,950,694,480

第11期 (平成30年4月17日～ 平成30年10月15日)	4,846,595	74,893,315	1,880,647,760
第12期 (平成30年10月16日～ 平成31年4月15日)	7,237,688	177,054,956	1,710,830,492
第13期 (平成31年4月16日～ 令和1年10月15日)	2,546,096	152,481,125	1,560,895,463
第14期 (令和1年10月16日～ 令和2年4月15日)	9,390,015	186,037,506	1,384,247,972
第15期 (令和2年4月16日～ 令和2年10月15日)	88,641,425	95,885,135	1,377,004,262

(注) 設定口数には当初募集期間中の設定口数を含みます。

(参考情報)

(2020年11月30日現在)

基準価額・純資産の推移、分配の推移

● 基準価額・純資産総額の推移

当初設定日(2013年4月23日)～2020年11月30日



*分配金込基準価額の推移は、分配金(税引前)を再投資したものと表示しています。

● 基準価額と純資産総額

基準価額(1万口当たり)	13,078円
純資産総額	1,780百万円

● 分配の推移(1万口当たり、税引前)

2020年10月	200円
2020年4月	0円
2019年10月	200円
2019年4月	200円
2018年10月	200円
設定来累計	4,600円

主要な資産の状況

● 資産配分

資産の種類	組入比率
株式	93.46%
債券	0.00%
現金・その他	6.54%
合計	100.00%

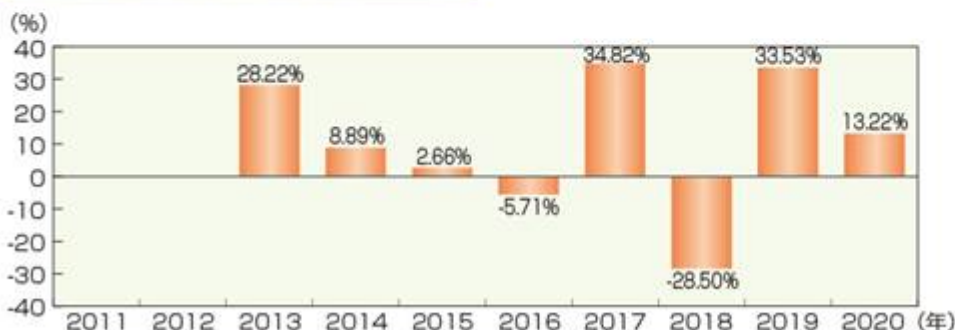
● 組入上位10銘柄

	銘柄名	業種	組入比率
1	ASML HOLDING NV	半導体半導体製造装置	17.91%
2	NXP SEMICONDUCTORS NV	半導体半導体製造装置	11.13%
3	ADYEN NV	ソフトウェア・サービス	7.90%
4	ASM INTERNATIONAL NV	半導体半導体製造装置	6.18%
5	CONSTELLIUM SE	素材	6.02%
6	SIGNIFY NV	資本財	4.58%
7	AERCAP HOLDINGS NV	資本財	4.51%
8	PROSUS NV	小売	3.91%
9	BE SEMICONDUCTOR INDUSTRIES	半導体半導体製造装置	3.82%
10	ACCELL GROUP	耐久消費財・アパレル	3.52%

● 組入上位10業種

	業種	組入比率
1	半導体半導体製造装置	39.05%
2	資本財	15.46%
3	素材	12.59%
4	ソフトウェア・サービス	9.13%
5	小売	3.91%
6	耐久消費財・アパレル	3.52%
7	運輸/旅行/宿泊/レジャー/エンタ	3.06%
8	各種金融	2.94%
9	運輸	2.01%
10	食品・飲料・タバコ	1.79%

年間収益率の推移(暦年ベース)



*年間収益率は基準価額(税引前分配金再投資ベース)をもとに算出した騰落率です。

*2013年は設定日(2013年4月23日)から年末までの収益率、2020年は1月1日から11月30日までの収益率を表示しています。

*当ファンドにベンチマークはありません。

*上記の運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を予想あるいは保証するものではありません。

*最新の運用状況については別途開示しており、表紙に記載の委託会社ホームページにおいて閲覧することができます。

第3【ファンドの経理状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況」を以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6か月であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。ただし、当ファンドの第15期計算期間は、令和2年4月16日から令和2年10月15日までといたします。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第15期計算期間（令和2年4月16日から令和2年10月15日まで）の財務諸表について、UHY東京監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】
【オランダ株式ファンド】
(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第14期 (令和2年4月15日現在)	第15期 (令和2年10月15日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	246,428,061	23,669,909
金銭信託	100,281,705	67,573,119
株式	980,436,400	1,602,523,982
流動資産合計	1,327,146,166	1,693,767,010
資産合計	1,327,146,166	1,693,767,010
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	-	27,540,085
未払解約金	937,512	4,074,655
未払受託者報酬	573,182	562,372
未払委託者報酬	12,786,227	12,545,040
その他未払費用	1,397,636	1,404,062
流動負債合計	15,694,557	46,126,214
負債合計	15,694,557	46,126,214
純資産の部		
元本等		
元本	1,384,247,972	1,377,004,262
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	72,796,363	270,636,534
(分配準備積立金)	249,200,227	223,486,683
元本等合計	1,311,451,609	1,647,640,796
純資産合計	1,311,451,609	1,647,640,796
負債純資産合計	1,327,146,166	1,693,767,010

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第14期		第15期	
	自 令和1年10月16日 至 令和2年4月15日		自 令和2年4月16日 至 令和2年10月15日	
営業収益				
受取配当金	5,216,182		7,408,410	
受取利息	25,201		-	
有価証券売買等損益	99,214,016		345,618,828	
為替差損益	20,414,319		42,992,004	
営業収益合計	114,386,952		396,019,242	
営業費用				
受託者報酬	573,182		562,372	
委託者報酬	12,786,227		12,545,040	
その他費用	1,964,384		1,894,660	
営業費用合計	15,323,793		15,002,072	
営業利益又は営業損失()	129,710,745		381,017,170	
経常利益又は経常損失()	129,710,745		381,017,170	
当期純利益又は当期純損失()	129,710,745		381,017,170	
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	13,704,174		17,081,818	
期首剰余金又は期首欠損金()	78,607,069		72,796,363	
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,027,431		7,037,630	
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-		4,790,249	
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,027,431		2,247,381	
剰余金減少額又は欠損金増加額	9,015,944		-	
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	9,015,944		-	
分配金	-		27,540,085	
期末剰余金又は期末欠損金()	72,796,363		270,636,534	

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 運用資産の評価基準および評価方法	(1) 株式 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、市場価格のある有価証券についてはその最終相場（計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場）で評価しております。 (2) 外国為替予約取引 計算日において予約為替の受渡日の対顧客先物相場の仲値で評価しております。
2. 収益および費用の計上基準	(1) 受取配当金の計上基準 受取配当金は、原則として配当落ち日において、確定配当金又は予想配当金額を計上しております。 (2) 配当株式の計上基準 配当株式は原則として、配当株式に伴う源泉税等の費用が確定した段階で、株式の配当落ち日に計上した数量に相当する券面額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる事項	外貨建取引等の処理基準 (1) 「投信信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条並びに第61条に基づいて処理しております。 (2) 当ファンドの計算期間は、令和2年4月16日から令和2年10月15日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第14期 (令和2年4月15日現在)	第15期 (令和2年10月15日現在)
1. 期首元本額	1,560,895,463円	1,384,247,972円
期中追加設定元本額	9,390,015円	88,641,425円
期中一部解約元本額	186,037,506円	95,885,135円
2. 元本の欠損	72,796,363円	- 円
3. 計算期間末日における受益権の総数	1,384,247,972口	1,377,004,262口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

	第14期 自 令和1年10月16日 至 令和2年4月15日	第15期 自 令和2年4月16日 至 令和2年10月15日
1. その他費用の内訳		
信託事務費用	1,964,384 円	1,894,660 円
2. 分配金の計算過程		
費用控除後の配当等収益額	A - 円	A 6,796,427 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券等損益額	B - 円	B 11,187,555 円
収益調整金額	C 66,955,360 円	C 81,757,905 円
分配準備積立金額	D 249,200,227 円	D 233,042,786 円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D 316,155,587 円	E=A+B+C+D 332,784,673 円
当ファンドの期末残存口数	F 1,384,247,972 口	F 1,377,004,262 口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000 2,283 円	G=E/F*10,000 2,416 円
10,000口当たり分配金額	H - 円	H 200 円
収益分配金金額	I=F*H/10,000 - 円	I=F*H/10,000 27,540,085 円

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

項目	第14期 自 令和1年10月16日 至 令和2年4月15日	第15期 自 令和2年4月16日 至 令和2年10月15日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品の運用を投資信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが運用する主な有価証券は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「運用資産の評価基準及び評価方法」に記載の有価証券等であり、全て売買目的で保有しております。また、主なデリバティブ取引には、先物取引、オプション取引、スワップ取引等があり、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するために行うことができます。当該有価証券及びデリバティブ取引には、性質に応じて市場リスク、価格変動リスクや為替変動リスク等があります。	同左
3.金融商品に係るリスク管理体制	コンプライアンス部では、運用状況のモニタリング、運用に関する法令諸規則の遵守状況の確認を行っております。 また、管理部では、運用に関するリスク管理を行っております。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	第14期 (令和2年4月15日現在)	第15期 (令和2年10月15日現在)
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2.時価の算定方法	有価証券（株式） 「注記表（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」の「運用資産の評価基準及び評価方法」に記載しております。 デリバティブ取引 該当事項はありません。 上記以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該帳簿価額を時価としております。	有価証券（株式） 同左 デリバティブ取引 同左 上記以外の金融商品 同左
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券の最終計算期間の損益に含まれた評価差額

第14期(自2019年10月16日 至2020年4月15日)

(単位：円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	47,167,591
合計	47,167,591

第15期(自2020年4月16日 至2020年10月15日)

(単位：円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	333,994,223
合計	333,994,223

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	第14期 (令和2年4月15日現在)	第15期 (令和2年10月15日現在)
1口当たり純資産額	0.9474円	1.1965円

(10,000口当たり純資産額)	(9,474円)	(11,965円)
------------------	----------	-----------

(4) 【附属明細表】

有価証券明細表（令和2年10月15日現在）

(ア) 株式

次表の通りです。

種類	通貨	銘柄名	株数	評価額		備考
				単価	金額	
株式	ドル	CONSTELLIUM SE	165,000	8.71	1,437,150.00	
		PROQR THERAPEUTICS NV	85,914	4.56	391,767.84	
QIAGEN N.V.		10,000	52.37	523,700.00		
NXP SEMICONDUCTORS NV		12,000	137.11	1,645,320.00		
	計	銘柄数：4 組入時価比率：25.5%	272,914		3,997,937.84 (420,822,937) 26.3%	
株式	ユーロ	AKZO NOBEL N.V.	2,500	90.62	226,550.00	
		ARCELORMITTAL	20,000	12.07	241,480.00	
		KONINKLIJKE DSM NV	3,000	147.10	441,300.00	
		AALBERTS INDUSTRIES NV	3,000	34.54	103,620.00	
		ALFEN BEHEER B.V.	2,000	60.50	121,000.00	
		ARCADIS NV	17,000	20.06	341,020.00	
		KONINKLIJKE BAM GROEP NV	80,000	1.08	86,480.00	
		SIF HOLDING NV	5,000	15.80	79,000.00	
		SIGNIFY NV	18,000	35.70	642,600.00	
		POSTNL NV	100,000	2.95	295,700.00	
		ACCELL GROUP	19,000	25.35	481,650.00	
		PROSUS NV	6,000	83.92	503,520.00	
		CORBION NV	6,000	43.50	261,000.00	
		GALAPAGOS NV	2,500	122.35	305,875.00	
		ING GROEP NV-CVA	50,000	6.24	312,450.00	
		ADYEN NV	700	1,679.00	1,175,300.00	
		JUST EAT TAKEAWAY.COM N.V.	2,000	104.15	208,300.00	
		ASM INTERNATIONAL NV	6,000	138.45	830,700.00	
		ASML HOLDING NV	7,000	340.90	2,386,300.00	
		BE SEMICONDUCTOR INDUSTRIES	12,500	41.10	513,750.00	
	計	銘柄数：20 組入時価比率：71.7%	362,200		9,557,595.00 (1,181,701,045) 73.7%	
	合計		635,114		1,602,523,982 (1,602,523,982)	

(注) 比率は左より組入時価の純資産に対する比率、および合計金額に対する比率であります。

(注) 合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式 時価比率	合計金額に 対する比率
ドル	株式4銘柄	25.5%	26.3%
ユーロ	株式20銘柄	71.7%	73.7%

(注) 組入株式時価比率とは、純資産額に対する比率であります。

(イ) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

有価証券先物取引等及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

「オランダ株式ファンド」

(2020年11月30日現在)

資産総額	1,784,280,124 円
負債総額	3,795,130円
純資産総額(-)	1,780,484,994円
発行済数量	1,361,408,761 口
1口当たり純資産額(/)	1.3078 円

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

(1) 資本金等（2020年11月末日現在）

資本金の額

1億6,240万円

会社が発行する株式総数（発行可能株式総数）

1,000株

発行済株式総数

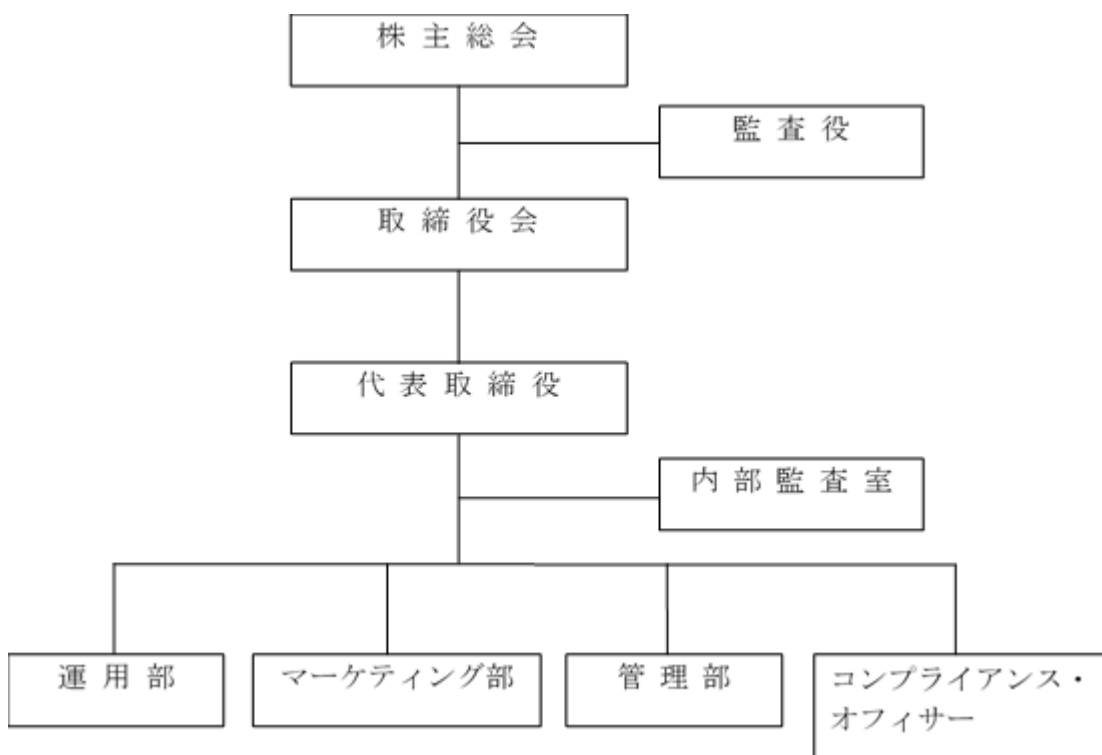
790株（普通株式）

過去5年間における資本金の増減

該当事項はありません。

(2) 委託会社の機構

会社の組織図

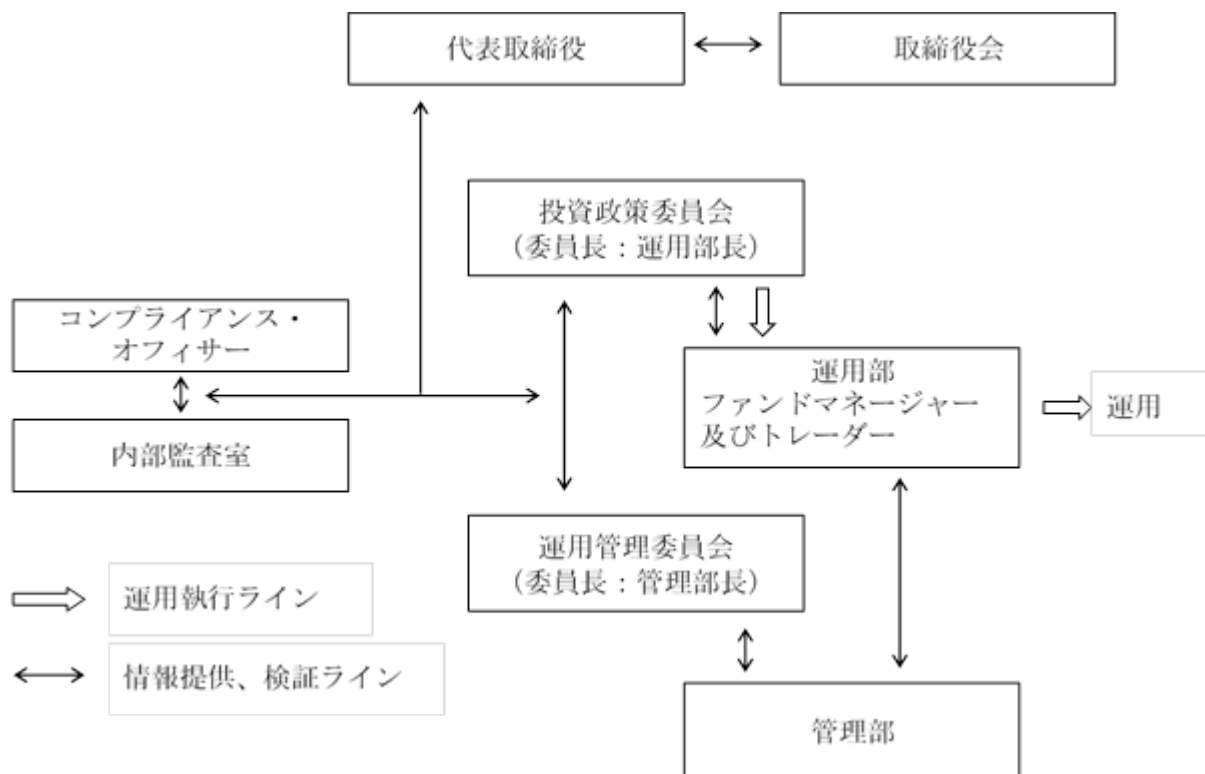


(注) 上記組織は、2020年11月末日現在のものであり、今後、変更となる可能性があります。

会社の意思決定機構

委託会社の取締役は3名以上、監査役は1名以上とし、株主総会で選任されます。取締役及び監査役の選任は議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によりません。取締役の任期は、選任後1年以内、監査役の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度うち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、任期満了前に退任した取締役または監査役の補欠として選任された取締役または監査役の任期は、前任者の任期の残存期間と同一とします。委託会社の業務の重要な事項は、取締役会の決議により決定します。取締役会は、その決議によって代表取締役を選定し、必要に応じて専務取締役、常務取締役長各若干名を選定することができます。代表取締役社長は、当会社を代表し、会社の業務を統括します。

投資信託の運用の流れ



（注）上記組織は、2020年11月末日現在のものであり、今後、変更となる可能性があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

委託会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社で、証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者（投資運用業）で、投資信託委託業務（投資信託の運用、管理）を行っております。

2020年11月末日現在、委託会社の運用する証券投資信託は、以下の通りです。

種類			本数	純資産総額
公募	追加型	株式投資信託	27本	49,291百万円
合計			27本	49,291百万円

（親投資信託を除く）

3【委託会社等の経理状況】

以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

- (1) 当社の財務諸表は、改正後の「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の中間財務諸表は、改正後の「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。)並びに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
- (3) 財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- (4) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第9期事業年度(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)の財務諸表について、UHY東京監査法人により監査を受けております。
また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第10期事業年度の中間会計期間(令和2年4月1日から令和2年9月30日まで)の中間財務諸表について、UHY東京監査法人により中間監査を受けております。

財務諸表等

1 財務諸表

(1) 【貸借対照表】

区分	注記 番号	第8期 (平成31年3月31日現在)		第9期 (令和2年3月31日現在)	
		金額(千円)		金額(千円)	
(資産の部)					
流動資産					
1		現金及び預金	657,916		634,461
2		立替金	-		4,565
3		前払費用	109		1,464
4		未収委託者報酬	89,821		76,795
5		未収入金	22,944		24,680
6		未収投資助言報酬	218		140
		流動資産合計	771,011		742,105
固定資産					
1	1	有形固定資産	1,299		4,345
		(1) 器具備品	1,299	4,345	
2		無形固定資産	443		1,815
		(1) ソフトウェア	443	1,815	
3		投資その他の資産	3,695		3,431
		(1) 繰延税金資産	3,595	3,328	
		(2) 前払年金費用	100	103	
		固定資産合計	5,437		9,592
繰延資産					
1	2	入会金	250		50
		繰延資産合計	250		50
		資産合計	776,698		751,748

区分	注記 番号	第8期 (平成31年3月31日現在)		第9期 (令和2年3月31日現在)	
		金額(千円)		金額(千円)	
(負債の部)					
流動負債					
1 未払金			100,289		89,342
(1) 未払手数料	3	55,807		44,200	
(2) その他未払金		44,481		45,142	
2 未払法人税等			14,487		5,717
3 未払消費税等			3,300		2,250
4 賞与引当金			5,800		5,700
流動負債合計			123,876		103,011
固定負債					
1 退職給付引当金			-		-
固定負債合計			-		-
負債合計			123,876		103,011
(純資産の部)					
株主資本					
1 資本金			162,400		162,400
2 資本剰余金			162,400		162,400
(1) 資本準備金		162,400		162,400	
3 利益剰余金			328,022		323,937
(1) その他利益剰余金					
繰越利益剰余金		328,022		323,937	
株主資本合計			652,822		648,737
純資産合計			652,822		648,737
負債及び純資産合計			776,698		751,748

(2) 【損益計算書】

区分	注記 番号	第8期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)		第9期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)	
		金額(千円)		金額(千円)	
営業収益					
1 委託者報酬			919,564		772,130
2 投資助言報酬			2,960		2,452
営業収益合計			922,524		774,582
営業費用					
1 支払手数料	1		595,543		496,590
2 委託計算費			33,831		33,475
3 広告宣伝費			1,966		1,851
4 調査費			7,530		7,559
5 営業雑経費			13,257		15,121
(1) 通信費		1,379		2,190	
(2) 協会費		1,520		1,549	
(3) 印刷費		10,357		11,381	
営業費用合計			652,129		554,599
一般管理費					
1 給料			102,168		105,242
(1) 役員報酬		12,001		12,000	
(2) 給料・手当		70,501		73,134	
(3) 賞与		6,169		6,234	
(4) 法定福利費		13,496		13,873	
2 旅費交通費			3,294		4,485
3 不動産賃借料			2,894		7,374
4 業務委託費			2,300		3,496
5 賞与引当金繰入			5,800		5,700
6 退職給付引当金繰入			2,015		2,351
7 租税公課			4,314		3,869
8 減価償却費	2		1,146		1,957
9 その他一般管理費			11,296		8,973
一般管理費合計			135,230		143,450
営業利益			135,165		76,532

区分	注記 番号	第8期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)		第9期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)	
		金額(千円)		金額(千円)	
営業外収益	3				
1 受取利息			0		0
2 雑収入			-		21
3 賞与引当金戻入			-		101
営業外収益合計			0		123
営業外費用					
1 繰延資産償却			200		200
営業外費用合計			200		200
経常利益			134,965		76,456
税引前当期純利益			134,965		76,456
法人税、住民税及び事業税			41,661		24,975
法人税等調整額		1,136		266	
当期純利益		92,168		51,214	

(3) 【株主資本等変動計算書】

	第8期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第9期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
区分	金額(千円)	金額(千円)
株主資本		
資本金		
当期首残高	162,400	162,400
当事業年度中の変動額		
当事業年度中の変動額合計	-	-
当期末残高	162,400	162,400
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	162,400	162,400
当事業年度中の変動額		
当事業年度中の変動額合計	-	-
当期末残高	162,400	162,400
資本剰余金合計		
当期首残高	162,400	162,400
当事業年度中の変動額		
当事業年度中の変動額合計	-	-
当期末残高	162,400	162,400
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	284,043	328,022
当事業年度中の変動額		
当期純利益	92,168	51,214
剰余金の配当	48,190	55,300
当事業年度中の変動額合計	43,978	4,085
当期末残高	328,022	323,937

区分	第8期	第9期
	(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	(自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
	金額(千円)	金額(千円)
利益剰余金合計		
当期首残高	284,043	328,022
当事業年度中の変動額		
当期純利益	92,168	51,214
剰余金の配当	48,190	55,300
当事業年度中の変動額合計	43,978	4,085
当期末残高	328,022	323,937
株主資本合計		
当期首残高	608,843	652,822
当事業年度中の変動額		
当期純利益	92,168	51,214
剰余金の配当	48,190	55,300
当事業年度中の変動額合計	43,978	4,085
当期末残高	652,822	648,737
純資産合計		
当期首残高	608,843	652,822
当事業年度中の変動額		
当期純利益	92,168	51,214
剰余金の配当	48,190	55,300
当事業年度中の変動額合計	43,978	4,085
当期末残高	652,822	648,737

重要な会計方針

1 繰延資産の償却方法	(1) 入会金 繰延資産として計上した一般社団法人日本投資顧問業協会への入会金は、資産として繰延べ、5年均等償却しております。
2 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下の通りであります。 器具備品 3年～20年 (2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。
3 引当金の計上基準	(1) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。 (2) 退職給付引当金（前払年金費用） 従業員の退職給付に備えるため、事業年度末における退職給付債務及び年金資産に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。
4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によるおります。

注記事項

（貸借対照表関係）

第 8 期 (平成31年 3月31日現在)	第 9 期 (令和 2年 3月31日現在)
<p>1. 固定資産の減価償却累計額は次の通りであります。</p> <p>有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>器具備品 5,016千円</p> <p>無形固定資産の減価償却累計額</p> <p>ソフトウェア 4,238千円</p> <p>2. 繰延資産の償却累計額は次の通りであります。</p> <p>繰延資産償却累計額 6,306千円</p> <p>創立費償却累計額 556千円</p> <p>入会金償却累計額 5,750千円</p> <p>3. 関係会社に対する負債は次の通りであります。</p> <p>(流動負債)</p> <p>未払手数料 52,503千円</p>	<p>1. 固定資産の減価償却累計額は次の通りであります。</p> <p>有形固定資産の減価償却累計額</p> <p>器具備品 4,818千円</p> <p>無形固定資産の減価償却累計額</p> <p>ソフトウェア 2,229千円</p> <p>2. 繰延資産の償却累計額は次の通りであります。</p> <p>繰延資産償却累計額 6,506千円</p> <p>創立費償却累計額 556千円</p> <p>入会金償却累計額 5,950千円</p> <p>3. 関係会社に対する負債は次の通りであります。</p> <p>(流動負債)</p> <p>未払手数料 40,693千円</p>

（損益計算書関係）

第 8 期 (自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日)	第 9 期 (自 平成31年 4月 1日 至 令和 2年 3月31日)
<p>1. 関係会社との取引に係るものが次の通り含まれております。</p> <p>支払手数料 544,710千円</p> <p>2. 減価償却費の内容は次の通りであります。</p> <p>減価償却費額 1,146千円</p> <p>有形固定資産減価償却費額 766千円</p> <p>無形固定資産減価償却費額 380千円</p> <p>3. 繰延資産償却の内容は次の通りであります。</p> <p>繰延資産償却額 200千円</p> <p>入会金償却額 200千円</p>	<p>1. 関係会社との取引に係るものが次の通り含まれております。</p> <p>支払手数料 491,718千円</p> <p>2. 減価償却費の内容は次の通りであります。</p> <p>減価償却費額 1,957千円</p> <p>有形固定資産減価償却費額 1,183千円</p> <p>無形固定資産減価償却費額 773千円</p> <p>3. 繰延資産償却の内容は次の通りであります。</p> <p>繰延資産償却額 200千円</p> <p>入会金償却額 200千円</p>

（株主資本等変動計算書関係）

第8期（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前事業年度末 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式 普通株式	790株	-	-	790株
合計	790株	-	-	790株

2．自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

3．配当に関する事項

（1）配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成30年6月20日 定時株主総会	普通株式	48,190	61,000	平成30年3月31日	平成30年6月21日

（2）基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
令和元年6月19 日 定時株主総会	普通株式	55,300	利益剰余金	70,000	平成31年3月31 日	令和元年6月20 日

第9期（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前事業年度末 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式 普通株式	790株	-	-	790株
合計	790株	-	-	790株

2．自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

3．配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
令和元年6月19日 定時株主総会	普通株式	55,300	70,000	平成31年3月31日	令和元年6月20日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
令和2年6月15 日 定時株主総会	普通株式	45,820	利益剰余金	58,000	令和2年3月31 日	令和2年6月16 日

(リース取引関係)

第8期（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

ファイナンス・リース取引の内容は次の通りであります。

リース取引開始日が、平成20年4月1日以降の所有権移転外ファイナンス・リース取引
ただし、一契約のリース料総額が300万円以下の取引であるため、従来通り「賃貸借処理」を
行っております。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末

残高相当額

(単位：千円)

	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	期末 残高相当額
コピー複合機一式	804	388	415
合計	804	388	415

(2) 未経過リース料期末残高相当額

1年内 171千円

1年超 289千円

合計 461千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額、支払利息相当額、リース資産除却損及びリース債務解約損

支払リース料 190千円

減価償却費相当額 160千円

支払利息相当額 27千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への分配
方法については、利息法によっております。

第9期（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）

ファイナンス・リース取引の内容は次の通りであります。

リース取引開始日が、平成20年4月1日以降の所有権移転外ファイナンス・リース取引
ただし、一契約のリース料総額が300万円以下の取引であるため、従来通り「賃貸借処理」を
行っております。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末

残高相当額

(単位：千円)

	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	期末 残高相当額
コピー複合機一式	804	549	254
合計	804	549	254

(2) 未経過リース料期末残高相当額

1年内 180千円

1年超 109千円

合計 289千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額、支払利息相当額、リース資産除却損及びリース債務解約損

支払リース料 190千円

減価償却費相当額 160千円

支払利息相当額 19千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への分配
方法については、利息法によっております。

（金融商品に関する注記）

1．金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に関する取組方針

当社は、経営方針に基づいて資金調達計画を決定いたしますが、当期会計期間においては新規の出資による資金調達は行っておりません。また、当期会計期間において銀行借入れによる調達も行っておりません。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

当社の営業債権は、契約により決定された委託者報酬等の計上に限定されるため、信用リスクに晒されることはほとんどないと認識しております。

（3）金融商品にかかるリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行にかかるリスク）の管理

当社の営業債権は、契約により金額が決定されるため、滞留債権が発生することはほとんどなく、営業債権について信用リスクに晒されることはほとんどないと認識しております。

市場リスク（為替や金利などの変動リスク）の管理

当社は、投資信託財産の為替変動リスクの回避又は効率的運用を図るため、外国為替の売買予約を行うことができるものとし、その取扱いについては、投資信託約款及び社内規程において定めるところによるものといたします。

資金調達にかかる流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、銀行借入れによる資金調達を行っておらず、親会社からの出資に依存して資金調達を行います。資金管理責任者は、常に資金繰りの状況を把握し、資金の調達または運用に関する確な施策を講じるとともに、手元流動性の維持等により流動性リスクを管理しています。

（4）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

第8期（平成31年3月31日現在）

平成31年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りです。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	657,916	657,916	-
(2) 未収委託者報酬	89,821	89,821	-
(3) 未収投資助言報酬	218	218	-
(4) 未収入金	22,944	22,944	-
資産計	770,901	770,901	
(5) 未払金	(100,289)	(100,289)	-
未払手数料	(55,807)	(55,807)	-
その他未払金	(44,481)	(44,481)	-

（注）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに投資有価証券及びデリバティブに関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収投資助言報酬、(4) 未収入金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

負 債

(5) 未払金（未払手数料及びその他未払金）

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

投資有価証券、デリバティブ取引

該当事項はありません。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

該当事項はありません。

第9期（令和2年3月31日現在）

令和2年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りです。
なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	634,461	634,461	-
(2) 未収委託者報酬	76,795	76,795	-
(3) 未収投資助言報酬	140	140	-
(4) 未収入金	24,680	24,680	-
資産計	736,078	736,078	
(5) 未払金	(89,342)	(89,342)	-
未払手数料	(44,200)	(44,200)	-
その他未払金	(45,142)	(45,142)	-

（注）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（注）1．金融商品の時価の算定方法並びに投資有価証券及びデリバティブに関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収投資助言報酬、(4) 未収入金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

負 債

(5) 未払金（未払手数料及びその他未払金）

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

投資有価証券、デリバティブ取引

該当事項はありません。

2．時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

該当事項はありません。

（有価証券関係）

第8期（平成31年3月31日現在）

- 1．子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの
該当事項はありません。
- 2．その他有価証券で時価のあるもの
該当事項はありません。
- 3．時価評価されていない有価証券
該当事項はありません。

第9期（令和2年3月31日現在）

- 1．子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの
該当事項はありません。
- 2．その他有価証券で時価のあるもの
該当事項はありません。
- 3．時価評価されていない有価証券
該当事項はありません。

(税効果会計関係)

項目	第 8 期	第 9 期
	(自 平成30年 4 月 1 日 至 平成31年 3 月31日)	(自 平成31年 4 月 1 日 至 令和 2 年 3 月31日)
	単位：千円	単位：千円
1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	繰延税金資産	繰延税金資産
	貯蔵品 579	貯蔵品 751
	賞与引当金 1,775	賞与引当金 1,745
	未払金 200	未払金 203
	未払事業税 1,013	未払事業税 610
	退職給付引当金 -	退職給付引当金 -
	一括償却資産 56	一括償却資産 48
	合計 3,625	合計 3,359
	評価性引当額 -	評価性引当額 -
	繰延税金資産合計 3,625	繰延税金資産合計 3,359
	繰延税金負債	繰延税金負債
	前払年金費用 30	前払年金費用 31
	合計 30	合計 31
繰延税金負債合計 30	繰延税金負債合計 31	
繰延税金資産の純額 3,595	繰延税金資産の純額 3,328	
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	法定実効税率 30.62%
		(調整)
		寄付金等永久に損金算入されない項目 0.91%
		役員賞与等永久に損金算入されない項目 1.2%
		住民税均等割額 0.35%
		その他 0.05%
		税効果会計適用後の法人税等の負担率 33.014%

（セグメント情報等）

セグメント情報

第8期（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

第8期（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

1．サービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への営業収益が、損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

（1）営業収益

本邦以外の外部顧客からの営業収益がないため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

投資信託の名称	営業収益	関連するサービスの種類
ニュージーランド株式ファンド	18,417	投資運用業
スイス株式ファンド	15,357	投資運用業
カレラ Jリートファンド	119,765	投資運用業
メキシコ株式ファンド	14,088	投資運用業
オランダ株式ファンド	30,536	投資運用業
カタール・アブダビ株式ファンド	7,734	投資運用業
ロシア株式ファンド	11,956	投資運用業
21世紀東京 日本株式ファンド	30,552	投資運用業
イタリア株式ファンド	18,230	投資運用業
フランス株式ファンド	21,539	投資運用業
3つの財布 欧州リートファンド	112,364	投資運用業
3つの財布 欧州銀行株式ファンド （毎月分配型）	147,869	投資運用業
スロベニア・クロアチア・ギリシャ株式ファンド	7,673	投資運用業
3つの財布 欧州不動産関連株ファンド （毎月分配型）	111,405	投資運用業

3つの財布 米国銀行株式ファンド (毎月分配型)	133,754	投資運用業
テキサス州株式ファンド	23,984	投資運用業
カレラワールド債券アクティブファンド	2,449	投資運用業
フィリピン株式ファンド	3,136	投資運用業
カレラ 日本小型株式ファンド	4,352	投資運用業
オーストラリアリートファンド	56,491	投資運用業
カレラ 米国小型株式アクティブファンド	14,605	投資運用業
中欧株式ファンド	13,295	投資運用業

セグメント情報

第9期（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

第9期（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）

1．サービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への営業収益が、損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦以外の外部顧客からの営業収益がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

投資信託の名称	営業収益	関連するサービスの種類
ニュージーランド株式ファンド	19,935	投資運用業
スイス株式ファンド	15,074	投資運用業
カレラ Jリートファンド	118,720	投資運用業
メキシコ株式ファンド	11,202	投資運用業
オランダ株式ファンド	24,710	投資運用業
カタール・アブダビ株式ファンド	6,779	投資運用業
ロシア株式ファンド	11,671	投資運用業
21世紀東京 日本株式ファンド	26,090	投資運用業
イタリア株式ファンド	14,227	投資運用業
フランス株式ファンド	15,922	投資運用業
3つの財布 欧州リートファンド	85,644	投資運用業
3つの財布 欧州銀行株式ファンド (毎月分配型)	102,515	投資運用業
スロベニア・クロアチア・ギリシャ株式ファンド	6,281	投資運用業
3つの財布 欧州不動産関連株ファンド (毎月分配型)	85,530	投資運用業
3つの財布 米国銀行株式ファンド (毎月分配型)	107,105	投資運用業
テキサス州株式ファンド	20,052	投資運用業

カレラワールド債券アクティブファンド	2,365	投資運用業
フィリピン株式ファンド	3,372	投資運用業
カレラ 日本小型株式ファンド	4,809	投資運用業
オーストラリアリートファンド	49,774	投資運用業
カレラ 米国小型株式アクティブファンド	11,499	投資運用業
中欧株式ファンド	10,834	投資運用業
グローバル医薬品株式ファンド	16,336	投資運用業
カレラ改日本株式ファンド	1,182	投資運用業
未来の光 日本小型株式ファンド	492	投資運用業

（関連当事者との取引）

第8期（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

1．関連当事者との取引

（ア）財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の 内容	議決権等の 被所有割合 (%)	関係内容		取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社	安藤証券（株）	愛知県 名古屋市	2,280	金融商品 取引業者	50.6	あり	投資信託 の販売等	証券代行	544,710	未払手数料	52,503

（注）1 取引金額には消費税等は含んでおりません。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

支払手数料については、一般的な契約条件を参考に価格及びその他の条件を決定しております。

2．親会社又は重要な関連会社に関する注記

（1）親会社情報

安藤証券株式会社（非上場）

（2）重要な関連会社

該当事項はありません。

第9期（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）

1．関連当事者との取引

（ア）財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の 内容	議決権等の 被所有割合 (%)	関係内容		取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社	安藤証券（株）	愛知県 名古屋市	2,280	金融商品 取引業者	50.6	あり	投資信託 の販売等	証券代行	491,718	未払手数料	40,693

（注）1 取引金額には消費税等は含んでおりません。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

支払手数料については、一般的な契約条件を参考に価格及びその他の条件を決定しております。

2．親会社又は重要な関連会社に関する注記

（1）親会社情報

安藤証券株式会社（非上場）

（2）重要な関連会社

該当事項はありません。

（ 1株当たり情報 ）

項目	第8期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第9期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
1株当たり純資産額	826,357円45銭	821,186円39銭
1株当たり当期純利益	116,669円28銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	64,828円94銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（注） 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	第8期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第9期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	652,822	648,737
普通株式以外に帰属する純資産合計額(千円)	-	-
普通株式に係る当事業年度末の純資産額(千円)	652,822	648,737
普通株式の当事業年度末株式数(株)	790	790

（注） 1株当たり当期純利益の算定上の基礎

項目	第8期 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	第9期 (自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日)
損益計算書上の当期純利益(千円)	92,168	51,214
普通株式以外に帰属する純利益(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	92,168	51,214
普通株式の当期中平均株式数(株)	790	790

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

中間財務諸表等

1 中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

		当中間会計期間末 (令和2年9月30日現在)	
区分	注記 番号	金額(千円)	
(資産の部)			
流動資産			
1		現金及び預金	580,401
2		立替金	3,201
3		前払費用	1,653
4		未収委託者報酬	75,276
5		未収投資助言報酬	155
6		未収入金	25,029
		流動資産合計	685,716
固定資産			
1	1	有形固定資産	3,932
		(1) 器具備品	3,932
2		無形固定資産	1,895
		(1) ソフトウェア	1,895
3		投資その他の資産	2,611
		(1) 繰延税金資産	2,611
		固定資産合計	8,439
繰延資産			
1	2	入会金	25
		繰延資産合計	25
		資産合計	694,181

		当中間会計期間末 (令和2年9月30日現在)	
区分	注記 番号	金額(千円)	
(負債の部)			
流動負債			
1 未払金			76,816
(1) 未払手数料	3	44,090	
(2) その他未払金		32,726	
2 未払法人税等			4,035
3 未払消費税等			2,767
4 賞与引当金			4,100
流動負債合計			87,720
固定負債			
1 退職給付引当金			21
固定負債合計			21
負債合計			87,741
(純資産の部)			
株主資本			
1 資本金			162,400
2 資本剰余金			162,400
(1) 資本準備金		162,400	
3 利益剰余金			281,639
(1) その他利益剰余金			
繰越利益剰余金		281,639	
株主資本合計			606,439
純資産合計			606,439
負債及び純資産合計			694,181

(2) 中間損益計算書

		当中間会計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	
営業収益			
1 委託者報酬			302,155
2 投資助言報酬	1		816
営業収益合計			302,971
営業費用			
1 支払手数料	2		194,311
2 委託計算費			16,079
3 調査費			3,838
5 営業雑経費			6,433
(1) 通信費		1,191	
(2) 協会費		938	
(3) 印刷費		4,304	
営業費用合計			220,663
一般管理費			
1 給料			51,955
(1) 役員報酬		6,086	
(2) 給料・手当		38,994	
(3) 法定福利費		6,874	
2 旅費交通費			1,321
3 不動産賃借料			8,030
4 業務委託費			1,338
5 賞与引当繰入			4,100
6 退職給付引当金繰入			1,397
7 役員退職慰労金			2,625
8 租税公課			1,691
9 減価償却費	3		682
10 その他一般管理費			3,071
一般管理費合計			76,214
営業利益			6,093

		当中間会計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	
営業外収益	4		
1 受取利息			0
2 賞与引当金戻入			578
3 雑収入			50
営業外収益合計			628
営業外費用			
1 繰延資産償却			25
営業外費用合計			25
経常利益			6,697
税引前中間純利益			6,697
法人税、住民税及び事業税		2,457	
法人税等調整額		717	
中間純利益		3,522	

(3) 中間株主資本等変動計算書

	当中間会計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)
区分	金額(千円)
株主資本	
資本金	
当期首残高	162,400
当中間会計期間の変動額	
当中間会計期間の変動額合計	-
当中間会計期間末残高	162,400
資本剰余金	
資本準備金	
当期首残高	162,400
当中間会計期間の変動額	
当中間会計期間の変動額合計	-
当中間会計期間末残高	162,400
資本剰余金合計	
当期首残高	162,400
当中間会計期間の変動額	
当中間会計期間の変動額合計	-
当中間会計期間末残高	162,400
利益剰余金	
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	
当期首残高	323,937
当中間会計期間の変動額	
当中間会計期間純利益	3,522
剰余金の配当	-45,820
当中間会計期間の変動額合計	-42,297
当中間会計期間末残高	281,639

	当中間会計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)
区分	金額(千円)
利益剰余金合計	
当期首残高	323,937
当中間会計期間の変動額	3,522
当中間会計期間純利益	-45,820
剰余金の配当	-42,297
剰余金の配当当中間会計期間の変動額合計	
当中間会計期間末残高	281,639
株主資本合計	
当期首残高	648,737
当中間会計期間の変動額	3,522
当中間会計期間純利益	-45,820
剰余金の配当	-42,297
当中間会計期間の変動額合計	
当中間会計期間末残高	606,439
純資産合計	
当期首残高	648,737
当中間会計期間純利益	3,522
剰余金の配当	-45,820
当中間会計期間の変動額合計	-42,297
当中間会計期間末残高	606,439

重要な会計方針

項目	当中間会計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)
1 繰延資産の償却方法	(1) 入会金 繰延資産として計上した入会金は、資産として繰延べ、5年均等償却しております。
2 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下の通りであります。 器具備品 3年~20年 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。
3 引当金の計上基準	(1) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。 (2) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、事業年度末における退職給付債務及び年金資産に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。
4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によるおります。

注記事項

（中間貸借対照表関係）

当中間会計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)	
1. 固定資産の減価償却累計額は次の通りであります。	
有形固定資産の減価償却累計額	
器具備品	5,231千円
無形固定資産の減価償却累計額	
ソフトウェア	2,499千円
2. 繰延資産の償却累計額は次の通りであります。	
繰延資産償却累計額	6,531千円
創立費償却累計額	556千円
入会金償却累計額	5,975千円
3. 関係会社に対する負債は次の通りであります。	
（流動負債）	
未払手数料	37,599千円

（中間損益計算書関係）

当中間会計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)	
1. 営業収益の投資助言報酬は、平成27年6月15日に業務の種別に係る変更登録につき、投資助言・代理業の追加を行い計上するものであります。	
2. 関係会社との取引に係るものが次の通り含まれております。	
支払手数料	165,445千円
3. 減価償却費の内容は次の通りであります。	
減価償却費額	682千円
有形固定資産減価償却費額	413千円
無形固定資産減価償却費額	269千円
4. 繰延資産償却の内容は次の通りであります。	
入会金償却額	25千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間(自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前事業年度末 株式数	当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計期間末 株式数
発行済株式				
普通株式	790株	-	-	790株
合計	790株	-	-	790株

2. 配当に関する事項 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
令和2年6月15日 定時株主総会	普通株式	45,820	58,000	令和2年 3月31日	令和2年6月15日

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

当中間会計期間(自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)

ファイナンス・リース取引の内容は次の通りであります。

リース取引開始日が、平成20年4月1日以降の所有権移転外ファイナンス・リース取引
ただし、一契約のリース料総額が300万円以下の取引であるため、従来通り「賃貸借処理」
を行っております。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び当中間会計期間末

残高相当額

(単位：千円)

	取得価額相当額	減価償却累計額 相当額	当中間会計期間末 残高相当額
コピー複合機一式	804	630	174
合計	804	630	174

(2) 未経過リース料当中間会計期間末残高相当額

1年内 184千円

1年超 15千円

合計 200千円

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

支払リース料 95千円

減価償却費相当額 80千円

支払利息相当額 6千円

(4) 減価償却費相当額の算定方法及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への分
配方法については、利息法によっております。

（金融商品に関する注記）

当中間会計期間末(令和2年9月30日)

金融商品の時価等に関する事項

令和2年9月30日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	580,401	580,401	-
(2) 未収委託者報酬	75,276	75,276	-
(3) 未収入金	25,029	25,029	-
資産計	680,707	680,707	
(4) 未払金	(76,816)	(76,816)	-
未払手数料	(44,090)	(44,090)	-
その他未払金	(32,726)	(32,726)	-
負債計	(76,816)	(76,816)	

（注）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（注）1．金融商品の時価の算定方法並びに投資有価証券及びデリバティブに関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 未収委託者報酬、(3) 未収入金

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

負 債

(4) 未払金（未払手数料及びその他未払金）

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。

投資有価証券、デリバティブ取引

該当事項はありません。

2．時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

該当事項はありません。

（有価証券関係）

当中間会計期間末(令和2年9月30日)

1．子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの

該当事項はありません。

2．その他有価証券で時価のあるもの

該当事項はありません。

3．時価評価されていない有価証券

該当事項はありません。

（税効果会計関係）

項目	当中間会計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)	
	単位：千円	
1 繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳	繰延税金資産	
	退職給付引当金	6
	貯蔵品	732
	賞与引当金	1,255
	未払金	35
	未払事業税	549
	退職給付引当金	-
	一括償却資産	32
	合計	2,611
	評価性引当額	0
	合計	2,611
	繰延税金資産合計	2,611
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	法定実効税率	30.62%
	(調整)	
	寄付金等永久に 損金算入されない項目	8.46%
	役員賞与等永久に 損金算入されない項目	6.86%
	住民税均等割額	2.17%
	その他	0.70%
	税効果会計適用後の 法人税等の負担率	47.41%

（セグメント情報等）

セグメント情報

当中間会計期間（自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日）

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

当中間会計期間（自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日）

1．サービスごとの情報

当社は、投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦以外の外部顧客からの営業収益がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

投資信託の名称	営業収益	関連するサービスの種類
ニュージーランド株式ファンド	8,873	投資運用業
スイス株式ファンド	5,878	投資運用業
カレラ Jリートファンド	42,432	投資運用業
メキシコ株式ファンド	3,531	投資運用業
オランダ株式ファンド	11,178	投資運用業
カタール・アブダビ株式ファンド	2,511	投資運用業
ロシア株式ファンド	4,444	投資運用業
21世紀東京 日本株式ファンド	10,401	投資運用業
イタリア株式ファンド	4,941	投資運用業
フランス株式ファンド	5,973	投資運用業
3つの財布 欧州リートファンド	30,020	投資運用業
3つの財布 欧州銀行株式ファンド （毎月分配型）	24,826	投資運用業
スロベニア・クロアチア・ ギリシャ株式ファンド	2,162	投資運用業
3つの財布 欧州不動産関連株ファンド （毎月分配型）	30,615	投資運用業
3つの財布 米国銀行株式ファンド （毎月分配型）	35,828	投資運用業
テキサス州株式ファンド	7,043	投資運用業
カレラ ワールド債券アクティブファンド	1,048	投資運用業
フィリピン株式ファンド	1,148	投資運用業
カレラ 日本小型株式ファンド	1,996	投資運用業
オーストラリアリートファンド	16,291	投資運用業
カレラ 米国小型株式アクティブファンド	5,087	投資運用業
中欧株式ファンド	3,480	投資運用業
グローバル医薬品株式ファンド	17,222	投資運用業

カレラ改日本株式ファンド	7,176	投資運用業
未来の光 日本小型株式ファンド	14,521	投資運用業
ニュー・ニッチ 日本小型株ファンド	3,460	投資運用業
カレラインフラ・ファンド	57	投資運用業

(1株当たり情報)

項目	当中間会計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)
1株当たり純資産額	767,644円83銭
1株当たり当中間会計期間純利益	4,458円44銭
	なお、潜在株式調整後1株当たり当中間会計期間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当中間会計期間純資産額の算定上の基礎

項目	当中間会計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)
中間貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	606,439
普通株式以外に帰属する純資産合計額(千円)	-
普通株式に係る当中間会計期間末の純資産額(千円)	606,439
普通株式の当中間会計期間末株式数(株)	790

(注) 1株当たり当中間会計期間純利益及び当中間会計期間純損失の算定上の基礎

項目	当中間会計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)
中間損益計算書上の当中間会計期間純利益(千円)	3,522
普通株式以外に帰属する純利益(千円)	-
普通株式に係る当中間会計期間純利益(千円)	3,522
普通株式の当中間会計期間中平均株式数(株)	790

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

以下の内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

受託会社

名 称 三菱UFJ信託銀行株式会社
 資本金の額 324,279百万円（2020年11月末日現在）
 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

<参考> 再信託受託会社の概要

名 称 日本マスタートラスト信託銀行株式会社
 資本金の額 10,000百万円（2020年11月末日現在）
 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
 関係業務の概要 受託会社より委託を受け、当ファンドの信託事務の一部（信託財産の管理等）を行います。

販売会社

名 称	資本金の額	事業の内容
安藤証券株式会社	2,280百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社SBI証券	48,323百万円	同上
楽天証券株式会社	7,495百万円	同上
auカブコム証券株式会社	7,196百万円	同上

2021年1月15日現在

3【資本関係】

<訂正前>

販売会社である安藤証券株式会社は、委託会社であるカレラアセットマネジメント株式会社の株式を400株保有しており、2020年5月末日現在の発行済普通株式数に対する比率は、50.6%です。
 その他の上記関係法人との間に資本関係はありません。

<訂正後>

販売会社である安藤証券株式会社は、委託会社であるカレラアセットマネジメント株式会社の株式を400株保有しており、2020年11月末日現在の発行済普通株式数に対する比率は、50.6%です。
 その他の上記関係法人との間に資本関係はありません。

独立監査人の監査報告書

令和2年12月25日

カレラアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中UHY東京監査法人
東京都品川区
指定社員 公認会計士 若槻 明 印
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているオランダ株式ファンドの令和2年4月16日から令和2年10月15日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、オランダ株式ファンドの令和2年10月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、カレラアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、経営者に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

カレラアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記は、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は、当社が別途保管しております。

(注2) X B R L データは監査の対象には含まれておりません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

令和2年6月8日

カレラアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

UHY東京監査法人

東京都港区

指定社員

公認会計士

若槻 明

印

業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているカレラアセットマネジメント株式会社の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの第9期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、カレラアセットマネジメント株式会社の令和2年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記は、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は、当社が別途保管しております。

(注2) X B R L データは監査の対象には含まれておりません。

[次へ](#)

独立監査人の中間監査報告書

令和2年11月9日

カレラアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

UHY東京監査法人

東京都品川区

指定社員

公認会計士

若槻 明

印

業務執行社員

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているカレラアセットマネジメント株式会社の令和2年4月1日から令和3年3月31日までの第10期事業年度の中間会計期間（令和2年4月1日から令和2年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、カレラアセットマネジメント株式会社の令和2年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（令和2年4月1日から令和2年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正

又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記は、独立監査人の中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は、当社が別途保管しております。

(注2) X B R L データは監査の対象には含まれておりません。